

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 19 人

② 算数 19 人

③ 理科 19 人

5 留意事項

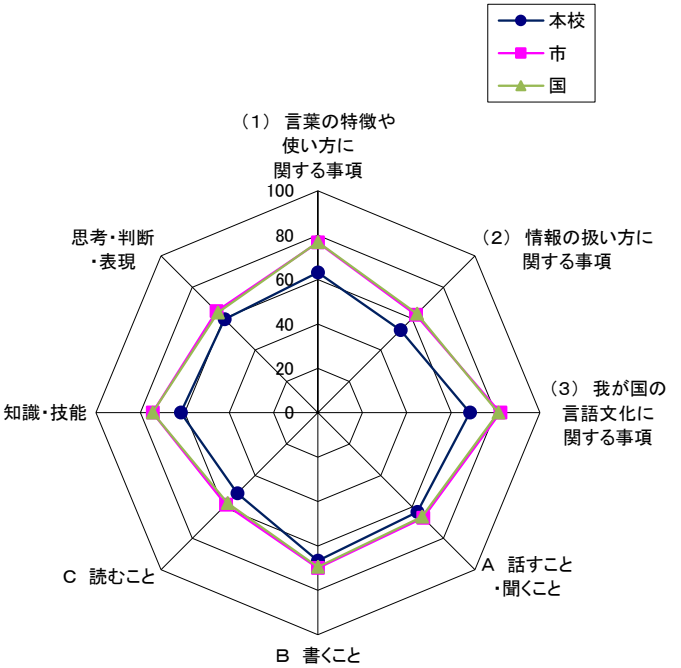
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	63.2	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	52.6	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	68.4	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	63.2	67.0	66.3
	B 書くこと	66.7	70.0	69.5
	C 読むこと	51.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	61.8	74.5	74.5
	思考・判断・表現	59.5	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

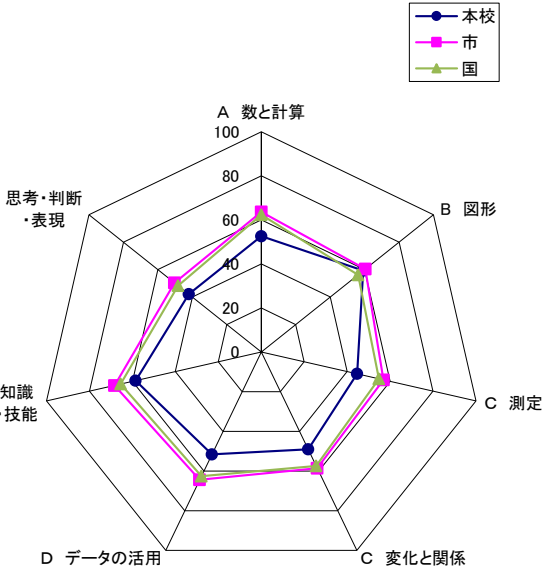
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	●漢字を文の中で正しく使う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。無解答の割合も多かった。	○漢字練習やAIDリルを活用した漢字の読み書きの復習に取り組み、学習した漢字を使って文章を作るなど、漢字の意味を理解し、文章の中で正しく使える学習方法を工夫する。
(2) 情報の扱い方に関する事項	●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。	○授業の中で線や記号を用いながら、情報と情報とを関係付ける方法について指導を工夫する。また、話す聞くなどの活動においてメモの書き表し方などについて適宜触れていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付けるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。	○日常的に読書に親しんだり、図書室を利用し図書館司書から本の紹介をしてもらったりするなどして、昔の言葉と今の言葉を比べる活動をする。今後も積極的な読書活動の推進をしていく。また、日常で使う言葉を昔の言い方にするなどで語彙について考える機会を作る。
A 話すこと・聞くこと	○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討できるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均とほぼ同じであった。また、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかを問う問題の正答率もほぼ同じであった。 ●話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめられるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。	○国語科の授業に関わらず、話の中で大切な言葉や理由をメモしたり、話し手の意見と同じ点や違う点を書き出し、自分ならどう感じるかを考えさせたりする機会を作る。また、授業内だけでなく日常生活の中から話題を作り出したり、話題について友達と意見を交換したりするような機会をつくることで、児童一人一人が自分なりの考えや意見がもてるようにする。 ○自分の考えが相手に伝わるような表現の工夫を適宜指導していく。また、話し方の基礎基本となる掲示物を活用し、各学年でも適宜触れる機会を設ける。
B 書くこと	○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えられるかを問う問題の正答率は、やや上回った。 ●図表を用いたり、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う問題の正答率は、県や全国をやや下回った。	○各教科の授業において書く機会を多く設け、文章を書くことに慣れさせていく。簡潔に書いたり、詳しく書いたり、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるよう指導する。
C 読むこと	●時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。無解答率も高かった。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。	○物語文などにおいていつ・どこで・だれが・何をしたを考えさせたり、時間を表す言葉に注目させたりするなどといった具体的なことを授業の中で適宜考えさせるような発問を多くしていく。また、音読や本の読み聞かせを聞いて順番を並べるゲームなどの機会をつくる。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	52.6	63.6	62.3
	B 図形	59.2	60.4	56.2
	C 測定	44.7	56.9	54.8
	C 変化と関係	49.1	58.6	57.5
	D データの活用	51.6	64.4	62.6
観点	知識・技能	58.5	68.3	65.5
	思考・判断・表現	42.1	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

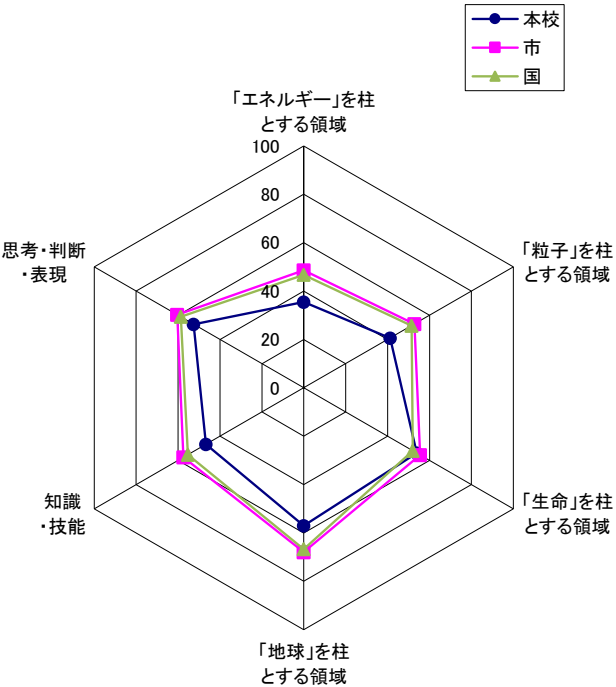
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題の平均正答率は、県の平均正答率を上回った。 ●数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・朝の学習の時間などを利用して、加法、減法、乗法、除法が混じった問題に取り組み、反復練習を多く取り入れることで基礎的基本的な計算問題の習熟を図る。 ・文章題を解く際に、問題の場面を具体的にイメージし、問われている数量が何かを意識することで、正しい立式ができるよう支援する。 ・図や数直線を使いながら、数の関係性を視覚的に捉えさせ、理解を深める。 ・少人数指導や習熟度別学習を活用して、児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図りたい。
B 図形	○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を上回った。 ○基本図形に分割することができる図形の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を上回った。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。	・図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりすることを、様々な機会に復習させる。 ・図形を決められたやり方で作図させるだけでなく、辺の数や辺の長さ、角の大きさに着目して、作図の仕方を筋道を立てて説明できるようにする機会を意図的にもつようにする。
C 測定	●はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を大きく下回った。	・算数だけでなく、各教科においても、はかりを用いて学習する機会を意図的に設け、1目盛りがいくつを示しているかを考えさせながら、正しく目盛りを読むことができるように様々な機会に復習をさせ、習熟を図る。 ・単に目盛りの読み方を教えるだけでなく、子どもたちが量感を伴って理解し、多様なはかりの目盛りに対応できる力を育んでいく。
C 変化と関係	●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題や見いだしたことから知りたい数量の大きさを求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。	・日常生活の具体的な場面に対応させながら文章書かれているについて理解させたり、図や式などを用いて二つの数量の関係を表したりすることができるようにする。また、答えを求めるだけでなく、「なぜその式を立てたの?」「どうやってその答えを導き出したの?」と問いかけることで、思考プロセスを言葉で説明する機会を意図的に設定し、習熟を図る。
D データの活用	●目的に応じて適切なグラフを選択して表されているか判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を大きく下回った。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を大きく下回った。	・日常生活の事象についてや、各教科においても、目的に応じて、様々な表やグラフの読み取りをさせ、グラフからどんな特徴や傾向が読み取れるかや、表の数値が何を表しているかを文章で記述させる機会を設け、習熟を図る。 ・データを分類整理させたり、様々な表やグラフから条件に合った読み取りをさせたりする機会を設け、データの活用力を身に付けさせる。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	35.5	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	41.2	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	53.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	57.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	46.7	57.5	55.3
	思考・判断・表現	52.6	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	●電磁石2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題では、県・全国の平均正答率を大きく下回った。 ●電気が流れる回路を4つの条件から選ぶ問題では、県・全国の平均正答率を大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正しい回路だけでなく、意図的に断線させたり、部品を逆向きにつないだりした「間違った回路」も作り、なぜ電気が流れないのかを児童自身に発見させ、その理由を言葉で説明させる。 ・どのような回路で電気が流れるか、電磁石が強くなるかといった問いに対し、児童に事前に予測を立てさせ、実験でその予測を検証するサイクルを重視する。 ・電流計を活用し、直列つなぎにおける電流の変化を数値として提示し、電流と電磁石の強さの関係をより具体的に理解させる。
「粒子」を柱とする領域	○水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、温度について調べる必要があることを答える問題では、県・全国の平均正答率を大きく上回った。 ●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題と、海にある氷がとけることについて、水が氷に代わる温度を根拠にして予想しているものを選ぶ問題では、県・国の正答率を大きく下回った。	・「なぜ濡れた洗濯物が乾くのか」「コップに入れた冷たい水の周りに水滴がつくのはなぜか」など、日常生活で体験する水の変化を科学的な視点から考察する機会を増やす。海にある氷が溶ける問題のように、具体的な場面を想定した学習活動の充実を図る。 ・0℃で氷が水に、100℃で水が水蒸気に変化するという知識を、単なる暗記ではなく、実験結果と結びつけて理解させる支援が必要と思われる。
「生命」を柱とする領域	○ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く問題では、全国の平均正答率をやや上回った。 ○ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題では、県・全国の平均正答率を大きく上回った。 ●ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ問題では、県・全国の平均正答率を下回った。	・ヘチマの種子の発芽条件を調べる実験(水、空気、温度など)で、児童が「なぜこの条件だけを変えるのか」「なぜ他の条件は同じにするのか」を自分の言葉で説明できるようにする。例えば、「水がないとどうなるか調べるなら、水以外の空気と温度は同じにする」といったように、比較対象を作るための条件制御の必要性を考えさせるように指導を工夫していく。 ・実験を行う前に、「こうすれば結果がわかるはずだ」という見通しを具体的に立てさせる。実験後は、得られた結果から「なぜそのような結果になったのか」を科学的な根拠に基づいて考察し、説明させる活動の充実を図る。
「地球」を柱とする領域	○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、片方のコップの土の量と水の量から、もう片方のコップの条件を書く問題では、県・全国の平均正答率を大きく上回った。 ●水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ問題や、水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、県・全国の平均正答率を大きく下回った。	・水は川、地下水、蒸発など、様々な形で移動していることを具体的に示す。水の一滴がたどる旅のようなイメージを持たせ、見えない水の動き(蒸発した水蒸気がどこへ行くのか、地下水がどこへ流れるのか)にも意識を向けることができるようにする。 ・複数の情報から水の動きや状態変化を推測させる活動を取り入れる。「この地域で雨がたくさん降ったら、水はどこへ流れていくか」といった具体的な問いを設定し、知識を応用して考える力を養う。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問では、100%の児童が肯定的な回答であった。栄養教諭の継続的な指導と学校全体の食育への取組が実を結んだものと考えられる。今後も、単に朝食を摂ることだけでなく、バランスの取れた食事の重要性や、それが学習活動や生活全体に与える好影響について、具体的な事例を交えながら指導を継続する。

○「自分にはよいところがあると思いますか」の質問では、95.6%の児童が肯定的な回答であり、県や全国の平均を大きく上回っている。これからも児童一人ひとりの頑張ったことやできるようになったことを具体的に言葉で伝え、承認する機会を意図的に増やしていく。また、学級全体で互いの良い点を見つけ、認め合うポジティブな人間関係の構築を促す活動を取り入れる。さらに振り返りノートなどにおいて、自己評価に加え、具体的な行動目標の設定や次の挑戦への意欲付けも促し、自己肯定感を自己成長へと繋げられるようにする。

○「友達関係に満足していますか」の質問では、94.7%の児童が肯定的な回答であった。より数値を高めていくために、多様な意見をもつ友達を理解し、尊重するためのグループ活動やペアワークを積極的に取り入れる。また、困っている友達に自然と手を差し伸べられるような優しい心を育む指導を継続する。

●「将来の夢や目標を持っていますか」の質問の肯定的な回答は、県や全国の平均正答率を下回った。今後、総合の時間でキャリア教育を行う際に、多様な職業や生き方があることを具体的に提示し、児童が興味をもてるような教材や学習活動を導入する。さらに「この学びが将来どのように役立つのか」という視点を提示し、夢や目標と現在の学習を結びつけることができるようにしていきたい。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問の肯定的な回答は、県や全国の平均正答率を大きく下回った。授業や学級活動の中で、積極的にグループワークやペアワークの機会を設ける。その際、「相手の意見を最後まで聞く」「自分の意見の根拠を明確にする」「違う意見から新しい考えが生まれることを体験させる」といった視点を具体的に指導する。また、教師自身が、多様な意見を歓迎し、肯定的に受け止める姿勢を示すことで、児童が安心して発言できる心理的安全性の高い場を作っていけるようにしたい。

●「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問の肯定的な回答は、県や全国の平均正答率を下回った。具体的には、習熟度別学習や、個別最適な学びを支援するためのICTツールを積極的に活用し、つまづきの原因を早期に特定し、個別指導を充実させていきたい。また、単元ごとに「何を学ぶのか」を明確に提示し、学習の見通しをもたせる。問題解決の過程で、既習事項をどのように活用するかを具体的に指導し、基礎知識と応用力を結びつける力を育てていきたい。

宇都宮市立富屋小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
分かりやすく伝える力や、正確に受け止め学び合う力を育てるための工夫	一人一人の思いや願いをもとに、友達と意見を交換し、互いの思いや考えを深めたり広げたりできるようにするための場を意図的に設けたり、1人1台端末の効果的な活用の仕方を工夫したりする。	タブレットやICT機器の活用に関して「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」84.4% 「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」94.7%と肯定的に回答した児童の割合は、どちらも国や県の平均を5%程度上回っている。
見通しをもって主体的に取り組む学習指導の工夫	学習のねらいや課題を明確にした授業構成の工夫と、自力で解決に取り組む場を確保する。	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の設問に肯定的に回答した児童の割合は84.2%で、県より2%、国より3.9%上回っている。